

## Y14a 「小惑星認識と惑星防衛の国際年」に向けた地球接近天体観測キャンペーン

浦川聖太郎 (日本スペースガード協会), 吉川真 (JAXA), 今村和義 (阿南市科学センター), 直川史寛 (東京大学), 安藤和子 (日本スペースガード協会/岡山理科大)

地球はその形成時から小惑星をはじめとする太陽系小天体との衝突を繰り返している。小惑星衝突の可能性は現在も続いており、その衝突は人類が直面する最大の自然災害と言える。小惑星の地球衝突問題に対する様々な取り組みをプラネタリーディフェンスという。小惑星アポフィスは、2029年4月に地球に約32,000kmまで接近し、3等級程度まで明るくなる小惑星である。アポフィスの接近をきっかけとして、国連は2029年を「小惑星認識と惑星防衛の国際年 (The International Year of Planetary Defense)」と定めた。我々のグループは、「小惑星認識と惑星防衛の国際年」に向けて地球接近天体の観測キャンペーンを通じたプラネタリーディフェンスの啓発活動を開始することとした。観測キャンペーンを実施するには、市販の望遠鏡で観測できるような明るい小惑星を対象としなければならない。その最初のテストとして、2025年9月に14等程度まで明るくなった小惑星 2025 FA<sub>22</sub> を観測対象とした。観測キャンペーンの実施にあたり、観測意義・予測位置・報告フォーマットなどを記載したウェブページを用意した。また X(旧 twitter) やメーリングリストでの観測の呼びかけも行った。その結果、6つの施設・個人から、10枚の観測画像の提供をいただいた。本講演では、観測キャンペーンの課題や反省点を報告すると共に、2026年6月に予定している小惑星 (152637) に対する観測キャンペーンを紹介する。